

一般財団法人神戸すまいまちづくり公社
平成 29 年度第 2 回評議員会会議録

1. 開催日時

平成 29 年 6 月 30 日（金）午前 9 時 30 分から午前 10 時 45 分まで

2. 会 場

サンパル 5 階 当公社会議室

3. 評議員現在数及び定足数並びに出席評議員数及びその氏名

評議員現在数 5 名 定足数 3 名

出席評議員数 3 名

出席した評議員の氏名 石丸 鐵太郎、加登 豊、安田 義秀

4. 出席監事の氏名

監事 岩崎 和文、監事 梁 英子

5. 出席理事の役職及び氏名

理事長 石井 陽一、専務理事 澤田 靖、常務理
事 松永 裕行理事 谷口 貴成、安田 丑作

6. 議長兼議事録作成者の氏名

加登 豊

7. 評議員会の議事の経過の要領及びその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長の選出

(3) 報告事項

①平成 28 年度事業報告及び決算について
意見については別紙 1 のとおりである。

②公益目的支出計画実施報告書について
意見については別紙 2 のとおりである。

③重要な財産の譲受けについて
意見については別紙 3 のとおりである。

(4) その他

その他の意見については、別紙 4 のとおりである。

(5) 閉 会

以上をもって議案の審議等を終了したので、午前 10 時 45 分に議長は
閉会を宣し、解散した。

報告事項①に対する意見

<住宅供給公社からの事業の継承>

評議員：

・ 4 番目の住宅供給公社からの事業継承に関して、過去の経緯を新しく公社に参画される方々に理解をしていただきたいという趣旨は重々承知しているが、現在は、公社の重要な事業の 1 つである。職員に継承することと、対外的な打ち出しは異なる。「住宅供給公社からの事業の継承」という表現は個人的にはやめてはと思う。

<ゴルフ場経営>

評議員：

・ ゴルフ場経営について、これから、高齢化も進んで大変な状況である。サービスマーケティングの領域で顧客満足ではなくて、お客様と一緒に価値をつくり出す、価値共創という概念がすごく重視され、活発な研究がされている。

・ 既存のゴルフ場運営会社から出てこないアイデアを活用する。それはゴルフ場だけに限らず他の事業に関しても言えることで、オープンイノベーション、つまり異業種のすぐれた知恵を上手に活用するということが大事。異業種のいいアイデアを自分たちの業務に活用できないのかとか、真剣に考えてみると結構当たりが見つかる事例が山ほどある。ゴルフ場だけではなく、ほかの事業に関しても幅広く上手に情報収集をしていただく。これは、公社の職員の方々のアイデアなんかを上手に酌み上げる仕組みなどにつながる。

報告事項②に対する意見

<ロープウェイ・ケーブル事業>

評議員：

・市の補助金に甘えるのではなく、収益性が高くなるアイデアを市に持っていき、「補助金無く運営できるので、市に返還する」という意識が必要

理事長：

・外郭として赤字削減に努力している。これは借り上げ特優賃も同じ。現在も、補助額削減に公社としても取り組んでおり、外郭団体としてしっかりと市の公益に貢献をしている。

評議員：

・無料なら乗車するが、ワンコインであれお金を支払うので、何らか行く魅力を感じないと乗ろうとならない。最近、レジャーが山ほどある。摩耶山・六甲山に行ってみようということになるためにはいろんな仕掛けが必要。

・インバウンドの人が参考にしている情報源が限られている。そこで取り上げられると、途端に人が集まってくる。もちろん魅力がないといけない。城崎温泉も、最初何もしてなかったけども、一旦、取り上げてからはたくさんのインバウンドのお客さんが来られた。有用な情報を、市の事業みたいところで提供するということが出来ればと思う。

報告事項③に対する意見

<新長田合同庁舎>

評議員：

・新庁舎の建設は、地元は非常に期待している。飲食関係では既にお弁当とかお昼のメニューを考えている。ただ、事業の進捗状況など地元には全然情報が下りていない。

評議員：

・新長田の再開発は計画どおり進んでいるとは残念ながら言えない。その中で、合同庁舎の建設は起爆剤。地域の再活性化につながるためには仕掛けが要る。庁舎が移りまっただけでは、アクティブではない。可能な限り仕掛けをつくっていただいて、地域全体の活性化にもつなげていけるようお願いしたい。

理事長：

・工事が11月ごろ着工。公社自身が設計等々するので、来年度から実際に現場に入っていく。その中で地域との関係で、活性化に向けてどういう役割を果たしていくかということについて検討したい。

評議員：

・現在、東京オリンピック絡みで人材が東京に集中している。大阪市内もハイタワーのマンションが当初予定より3割から5割増しぐらいで工期が遅れている。そのような状況の中、工期が遅れるということをしてできるだけ避けていただけようお願いしたい。

その他意見

<資金運用管理規程の見直し>

評議員

・6月16日付で基本財産管理の管理方法について定款変更の提案をいただいた。前もって書面でという理由は、本日、評議員の欠席が見込まれるということと、あらかじめ中身を周知し検討いただきたいという旨であると理解している。事情があるので仕方がないと思うが、その日に評議員会があるが、これは書面決議なので、評議員会の議題では無いというのは、すごくトリッキーな扱いだと個人的に思う。

・中身について、「その他理事会で定めた方法」というのは極めて危険な定め方となる。これに歯止めをかける方法について、事務局からは資金運用規程等を見直すということであるが、そのあたりを説明してほしい。

理事：

・評議員からの御指摘、御懸念については、私どもも理解している。定款については大まかな規定にして、その定款を受けて、資金運用規程をこの機会に見直し、元本を毀損しないことを担保して、安全かつ有利な運用したいと考えている。

評議員：

・資金運用規程を正しく見直していただくことで、公社の職員の方々を守る結果的につながる。今回の定款変更をきっかけに、資金運用規程をよりよい形にしてほしい。

<ケーブル・ロープウェイ社会実験>

評議員：

・社会実験的を機に乗車して良かったという気になり、値段が上がっても、半日過ごせるかどうかというのがすごく重要になってくる。それも含めての社会実験と思っている。

・まやに関しては、私の友達がイベントを神戸市に仕掛けており、無料化前よりも観光客が増加したというデータを神戸市からいただいている。無料化とかワンコインだけでなく、追加的なイベントがパッケージで必要では。

理事長：

・社会実験とあわせてイベントも行った。一過性のイベントを六甲山関係とどう連携していくか。トータルコーディネートは市にお願いしている。

評議員：

・神戸市の話ではあるが、株式会社神戸市と呼ばれたのは社会的にはすごくポジティブであるが、色々新しい取り組みをやりかけたこと自体を神戸市では失敗と感じている。社会的にはイメージがすごく重要。公社でできる業務の中で、公社から良いアイデアが出て、それを市に広げていく。公社は、神戸市からの委託事業が主な活動になっていると思うが、公社は別組織。公社独自で採用された職員も大勢おられる。公社の魅力を上げていくこともすごく重要なものだろうと思う。ぜひ積極的に取り組んでいただきたい。